

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 1 月 日作成)

小委員会名	環境選択型空調小委員会		主 査 名：秋元孝之 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：吉田治典
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・環境選択型空調の国内外における研究事例、実施事例を整理し、定量的データの蓄積を行い、実建物への導入のための設計ガイドラインを作成する。また、2年毎にシンポジウムを開催する予定。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：		
	秋元孝之主査 (芝浦工大)、野部達夫幹事 (工学院大)、横山計三 (日比谷総合設備)、村上宏次(清水建設)、大宮由紀夫 (竹中工務店)、飯塚宏 (日建設計)、大黒雅之 (大成建設)、近本智行 (立命館大)、佐々木真人 (日本設計)、三浦克弘 (鹿島建設)、小金井真 (朝日工業社)、平山昌宏 (芝浦工大)、田辺新一 (早稲田大学)、半澤久 (北海道工大)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2008 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 蓄積した国内外における研究事例、実施事例の調査などにより、小委員会としての共通認識を醸成した。また、それをもとに用語の定義、論点の整理など、枠組に関する検討を行った。 2. システム評価方法等の検討、実験、実測、シミュレーションを実施した。タスク・アンビエント空調等のシステムについて研究を実施した。 3. 設計ガイドラインを作成する上で必要な検討事項を抽出した。
委員会活動の問題点・課題	1. 特になし 2.

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>計画された4年間の活動を経て、予定した成果を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 蓄積した国内外における研究事例、実施事例の調査などにより、小委員会としての共通認識を醸成した。また、それをもとに用語の定義、論点の整理など、枠組に関する検討を行った。 システム評価方法等の検討、実験、実測、シミュレーションを実施した。タスク・アンビエント空調等のシステムについて研究を実施した。 設計ガイドラインを作成する上で必要な検討事項を抽出した。 2008年度にシンポジウムを開催予定である。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。